

学園

平成 21 年 7 月 1 日 発行
財団法人
中国四国酪農大学校
電話 (0867) 66-3651
FAX (0867) 66-3652
E-mail jerko@mx4.et.tiki.ne.jp
<http://ww4.et.tiki.ne.jp/~jerko/>

だより



第45期生 蒜山ハーブガーデン ハービルにて

巻頭の言葉

校長 上原逸史



卒業生の皆様並びに本校の運営につきまして支援して

くださっている皆様には、ますます健やかにご活躍のこととおよろこび申し上げます。

梅雨に入りました当初は、水不足が懸念されましたが、六月の終わりに集中的な雨が降り、まず水不足の心配はうすらいだと思っています。しかし、この集

中豪雨で報道によりますと一部地域では被害あったやにきいております。被災された方にはお見舞い申し上げます。

酪農大学校では、四月下旬から五月初旬に播種しましたとうもろこしが、順調に生育しており、この春入学してきました四十五期生十四名は、三ヶ月が経過し

酪農大学校では、四月下旬から五月初旬に播種しましたとうもろこしが、順調に生育しており、この春入学してきました四十五期生十四名は、三ヶ月が経過し

たが、六月の終わりに集中的な雨が降り、まず水不足の心配はうすらいだと思っています。しかし、この集

酪農大学校では、四月下旬から五月初旬に播種しましたとうもろこしが、順調に生育しており、この春入学してきました四十五期生十四名は、三ヶ月が経過し

ます。

酪農大学校では、四月下旬から五月初旬に播種しましたとうもろこしが、順調に生育しており、この春入学してきました四十五期生十四名は、三ヶ月が経過し

梅雨に入りました当初は、水不足が懸念されましたが、六月の終わりに集中的な雨が降り、まず水不足の心配はうすらいだと思っています。しかし、この集

酪農大学校では、四月下旬から五月初旬に播種しましたとうもろこしが、順調に生育しており、この春入学してきました四十五期生十四名は、三ヶ月が経過し

たが、六月の終わりに集中的な雨が降り、まず水不足の心配はうすらいだと思っています。しかし、この集

酪農大学校では、四月下旬から五月初旬に播種しましたとうもろこしが、順調に生育しており、この春入学してきました四十五期生十四名は、三ヶ月が経過し

たが、六月の終わりに集中的な雨が降り、まず水不足の心配はうすらいだと思っています。しかし、この集

酪農大学校では、四月下旬から五月初旬に播種しましたとうもろこしが、順調に生育しており、この春入学してきました四十五期生十四名は、三ヶ月が経過し

たが、六月の終わりに集中的な雨が降り、まず水不足の心配はうすらいだと思っています。しかし、この集

酪農大学校では、四月下旬から五月初旬に播種しましたとうもろこしが、順調に生育しており、この春入学してきました四十五期生十四名は、三ヶ月が経過し

たが、六月の終わりに集中的な雨が降り、まず水不足の心配はうすらいだと思っています。しかし、この集

酪農大学校では、四月下旬から五月初旬に播種しましたとうもろこしが、順調に生育しており、この春入学してきました四十五期生十四名は、三ヶ月が経過し

たが、六月の終わりに集中的な雨が降り、まず水不足の心配はうすらいだと思っています。しかし、この集

酪農大学校では、四月下旬から五月初旬に播種しましたとうもろこしが、順調に生育しており、この春入学してきました四十五期生十四名は、三ヶ月が経過し

破綻を契機に穀物や原油価格が上昇し、さらにアメリカの金融不安に引きずられた世界的な大不況は、酪農経営に大きな影響を及ぼし廃業される農家に歯止めがかからない状況が続いております。

も本校の役割が問われる時代だと痛感するなかで、岡山県の定める「岡山県行財政構造改革大綱二〇〇八」に沿って本校でもいろいろの面から検証し、具体的には本年度から三年間のうちに検証、見直し更に発想の転換を行うなどして自主財源の確保等を行っていかなければなりません。

そのなかで、昨年の四月に約三〇年ぶりの乳価の値上がり、今年の三月に再値上げがあるなど、僅かではありますが見るべき兆しが見えませんでした。

このように抜本的な見直しは、まだ緒をついたばかりですが、皆様のご支援をいただき職員一同丸となって今後の方性を検討し、より良い酪農大学校にしていく所存ですので、一層のご協力で、一層のご協力を

一方、国をはじめとして地方自治体も財政事情は厳しく、皆様もご存じのとおり岡山県でも大きな課題となっており、例外なく厳しい歳出の削減が行われることになっていきます。

将来の酪農産業の基礎を築くという観点から、今後

酪農情勢は、アメリカのサブプライムローンの

酪農情勢は、アメリカのサブプライムローンの

酪農情勢は、アメリカのサブプライムローンの

酪農情勢は、アメリカのサブプライムローンの

酪農情勢は、アメリカのサブプライムローンの

酪農情勢は、アメリカのサブプライムローンの



H21年度入学式



卒業生
「目指すは一家三代で
酪大生」

第三十八期
芦田 恵美子

酪農大卒業生、在校生の皆さん、はじめまして、あるいはお元気でしょうか？第三十八期卒業生の芦田（旧姓森本）恵美子と申します。今回、学園便りに近況報告をさせて頂いていただくことになりました。何分にも文才などございませんので、見苦しい部分もあるかと思いますが、何卒ご容赦願います。思い返すと、酪農大の生活は私にとってとても楽しいものでした。同期生たちと牛に向

き合った日々はとても印象深く記憶に残っています。また、今の夫となる人と出会った運命の場所としても。

私は酪農大を卒業後、故郷の熊本県で就職し一年間人工授精師として働いていました。が、結婚を機に夫の実家である岡山県で暮らしています。牛が大好きな私にとって幸い、義父が酪農を営んでおり、私も子育てをしながら牛に関わることができ、とても充実した日々を送ることができています。しかも義父は酪農大の第六期卒業生なのです。私には今娘が一人おりますが、牛が好きなので将来は酪農大に入学したいと言いつつも、もしかしたらな日があるのが今から楽しみです。

また、在学中にソフトボール大会でユニフォームのデザインをしたことがきっかけで、卒業後も栃木全共の岡山県スタッフユニホームのデザインや、現在では学園便りのイラストを描かせてもらっています。ほんのわずかですが絵を通して学校との接点を持つことができ、嬉しく思っています。今後とも実家で牛に関わる仕

在校生
一年生になって

四十四期生
岡本 明恵

事を続けていく予定ですので、卒業生の諸先輩方、あるいは後輩の皆さんよろしくお願いいたします。

中国四国酪農大に入学してから早くも一年が経ちました。入学当初は初めて親元から離れ、身の回りのことは自分でしなければならぬ寮生活や、クラスメイトと仲良くなれるのか、慣れない早起きや作業がちゃんと出来るのか、とても不安でした。しかし、友達の支えや、忙しい中自分の作業の手をとめて一つ一つ丁寧に教えてくれる先輩や先生方、陰で支えてくれた両親のお陰で戸惑いながらも乗り越えることができ、無事二年生になることができました。心から感謝の気持ちでいっぱいです。

四月に四十五期生が入学してきてからは、指導される側から指導する側になったことで、先輩達の苦勞を実感しました。し

かし、苦勞だけではなく後輩から学ぶこともたくさんあることに気がきました。

また、一年生の頑張っている姿を見ていると、この一年間の様々な出来事が思い出されます。第一牧場でのパイプライン搾乳、慣れない草刈り、ロール作り、共進会に向けての調教や牛洗い、毛刈り。第二牧場でのジャージー種のパーラー搾乳、コーンのサイロ漬け、放牧。冬の作業では、気温はマイナス十度を下回ることもあり、雪が積もると膝まで埋まり、多い時には一メートル近くも積もり、何をやるにもとても困難でしたが、休み時間の合間に雪合戦などをして楽しむことができました。その他にもトラクター、けん引演習、人工授精講習、削蹄技術演習、牛の毛刈り実習など、酪農を営む上で欠かすことのできない技術を学ぶことができました。

座学では、高校では習ったことのない畜産の専門的な教科を多く学ばなければならぬので、ちゃんとついていけるか不安でしたが、先生方が根気よく何度も教えてくれたので理解することができました。でも、ま

だまだ分からない事が多いのでもっと勉強したいと思っています。これから私は研修生として様々な研修農家で実習をさせて頂きたいと思います。酪農大で一年間学んだ技術と知識を活かし、研修先でも多くの事を学び自分をスキルアップさせたいので、一生懸命頑張りたいと思います。また、学校に帰ってから受精卵移植などの資格取得をする機会があるので積極的に取得していきたいです。

卒業後は一緒に過ごしてきたクラスメイトも進む道は少しずつ違いますが、酪農界に貢献できるような人になれるよう努力していきたいと思えます。



職員紹介

- 校長 上原 逸史
- 副校長 谷田 重遠 (教務課長兼務)
- 総務課 中務 浩一
- 主事 有富 英美
- 教務課 岡崎 奈々
- 技師 北野 紘平
- 調理員 谷口 育子
- 藤本 光子
- 小椋 麗子
- 経営課 井上 信治
- 第1牧場 関 哲生
- 第2牧場 池田 良弘
- 第2牧場長 串田 晴彦
- 技師 芦田 草太
- 長綱 則之
- 西村 祐枝
- 竹井 晶子

○印は内部異動者
◎印は新職員

新職員より一言

皆さんはじめまして。
私は3月まで琉球大学で、草地の研究をしていました。酪農大学校では広大な草地を利用した粗飼料生産が行われていて、ここに就職できて本当によかったと思う今日この頃です。大学で学んだ知識を多くの学生に伝えられるよう頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。
竹井 晶子

岡山出身で東京農工大卒の獣医です。県庁畜産課で酪農、肉牛振興に携わり、真庭家畜保健所で酪農を担当していました。趣味は学生時代からの乗馬で、蒜山ホースランドパークで競技会を開催しています。蒜山を馬と牛で盛り上げたいと思います。
関 哲生

約15年ぶりの勤務になります。この間に、歴史を刻んだそれぞれの搾乳牛舎は新装され、一方では、大学校の運営環境は大きく変化しています。ただ、新入生は最初に赴任した頃の学生と同じように感じられます。緊張感を持って楽しく勤めたいと思っています。
谷田 重遠



飼養頭数



	乳 牛		肉 牛	
第1牧場	経産牛	47頭	肥育牛	13頭
	育成子牛	30頭		
第2牧場	経産牛	88頭	なし	
	育成子牛	52頭		



赤ホル2頭目が生まれました

かし、そのあふれんばかりのエネルギーはいつの時代にも引けを取っていないと感じています。第一牧場の職員は昨年引き続き、井上経営課長、池田技師と今年から移

動してきた関場長の三人で頑張っています。今年度の課題は乳質、繁殖、環境整備です。乳質は最近第二牧場が乳質向上に向けて頑張っており、体細胞数で抜かれることがしばしばあります。第一牧場も負けなように頑張りたいと思います。繁殖に関しては昨年度の一月から受胎率が悪化しているのでその改善をしたいと思っています。環境整備は蒜山で一番きれいな牛舎を目指して整理整頓に励む予定です。また、赤色のホルスタインも昨年に続き二頭目が生まれました。旧搾乳牛舎のパドックで観光客に見てもらえる日が楽しみです。

今年が一番草がたくさ

んとれました。引き続きこの調子で二番草、三番草もしっかり収穫したいと思っています。今年に入ってからOB、OGの方々は何らか訪ねていらっしやいました。学校は建物だけではなく、牛の飼いや霧

梅雨のジメジメと、もうすぐやってくる夏の暑さで牛も人間も少々疲れ気味な時期ですが、卒業

生の皆様にはお元気でご活躍のことと思います。今年の新入生は、昨年よりもさらに少なく十四名でした。し

今年度の課題は乳質、繁殖、環境整備です。乳質は最近第二牧場が乳質向上に向けて頑張っており、体細胞数で抜かれることがしばしばあります。第一牧場も負けなように頑張りたいと思います。繁殖に関しては昨年度の一月から受胎率が悪化している

困気も年々変化しております。昔とは大きく違いますが、卒業生の皆様には蒜山の近くにおこしの際には、ぜひ本校に足を運んでいただければと思います。

もう1頭も順調です

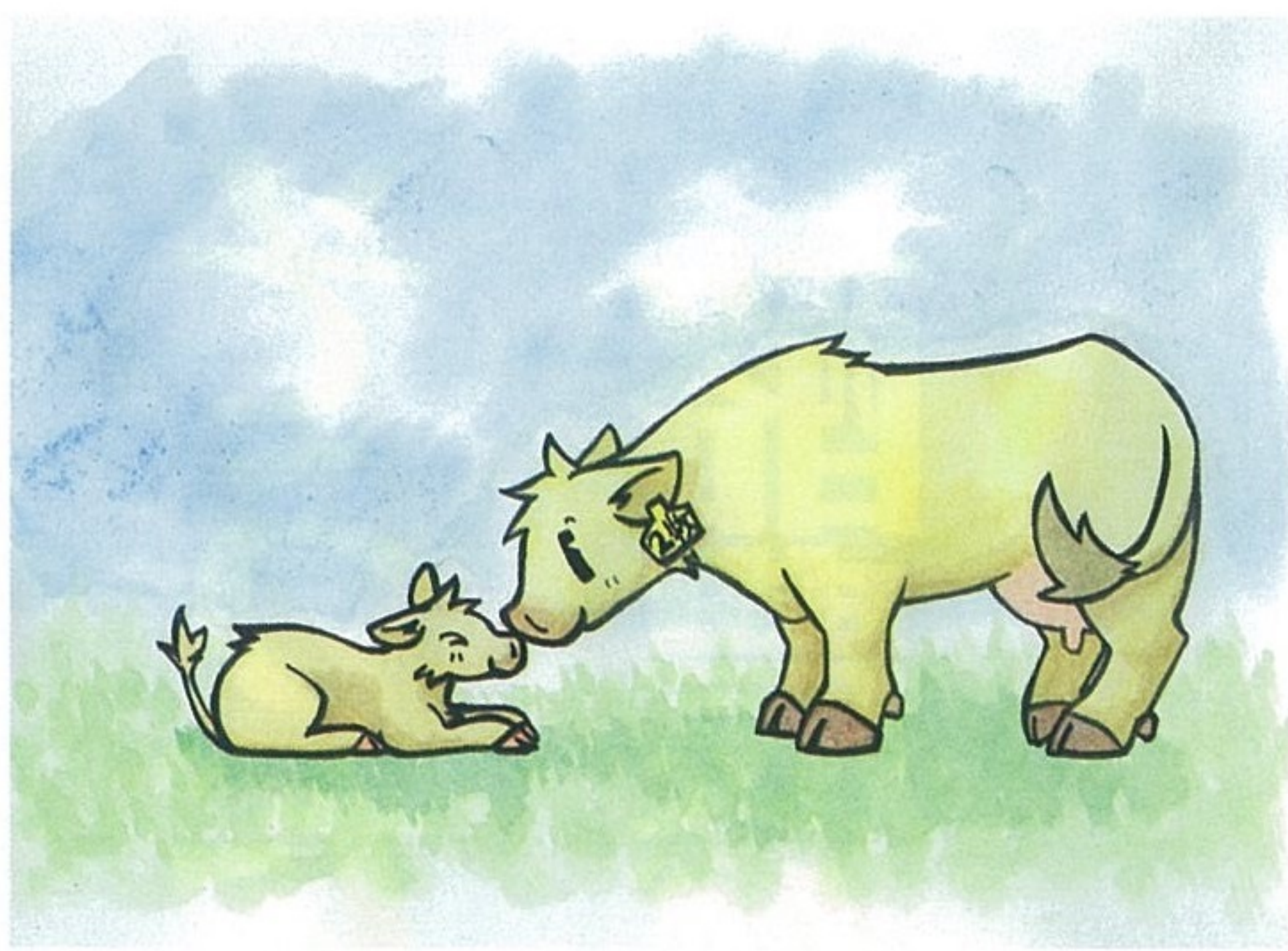


もう1頭も順調です



蒜山もようやく緑が生えそろい、夏を迎えようとしています。卒業生の皆様には、お元気で活躍のこととお慶び申し上げます。

第二牧場は昨年度に引き続き、串田場長、長綱技師、西村技師に加えて、新職員の竹井技師、内部異動で加わった若田技師を新たに迎え、学生・職員共に日々協力し、作業に取り組んでいます。



今年度は春を迎えても気温が上がらず、牧草の生育が心配でしたが、例年通りの時期に初放牧を行うことができました。放牧を経験している経産牛たちは勢いよく牛舎を飛び出し、牧

草を口いっぱい頬張ったり、元気に走り回ったりしていました。放牧を経験したことの無い初産牛たちは恐る恐る牛舎から歩いていき、経産牛たちに混じって牧草を食べていました。また、今年度もふれあい広場に育成牛三頭と成牛一頭を放牧しました。狭い牛舎から開放され、広々とした草地で青々とした牧草を食べ、たまに観光客に愛嬌をふりまき、ふれあい広場は観光客でにぎわっています。

第二牧場では昨年度の目標であった乳質対策に改善が見られ、蒜山管内でもトップクラスの乳質となりました。しかし、乾乳期に乳房炎に罹患する牛が去年に引き続き多く、育成牛も分娩直後から乳房炎というケースもあるため、まだまだ乳房炎対策は力を入れて取り組むべき課題となっています。また、昨年度に潜在性乳房炎牛を多数淘汰したため、搾乳牛自体の

頭数が昨年度に比べ、十頭近く減りました。そのため、日々の出荷乳量が一〇〇〇kgを下回る日々が続いています。そこで、今年度の目標は、良質の牛乳を一〇〇〇kg以上出荷することです。出荷乳量の減少は、搾乳牛の頭数が減少していることに加え、搾乳牛に給与しているTMR自体のエネルギー不足や、ラップサイレージの品質が不良で、乾乳期や育成

期に食い込むことができていないといった要因も乳量の低下の要因と考えています。昨年度に収穫したラップサイレージは高水分で、円柱形を維持できないものが多く、牛たちも仕方なく食べているロールばかりでした。また、



H21年度 初放牧

最後にになりましたが、蒜山へおいでの際は、第二牧場にもお気軽にお立ち寄りください。職員・ジャージー牛ともに心よりお待ちしております。

デントコーンも収穫適期に刈り取ることができず、質が良いとは言えないサイレージになりました。そこで、牛たちも喜んで食べるサイレージを収穫することも併せて頑張ることが目標です。

中国四国酪農大学校

検索

酪農が あつた そつだ!

〈学生募集〉

推薦募集 受付期間 平成21年9月1日~10月2日 試験日 平成21年10月17日(本校会場)
平成21年10月18日(岡山会場)
第1次募集 受付期間 平成21年11月2日~11月30日 試験日 平成21年12月11日
第2次募集 受付期間 平成21年12月14日~平成22年3月1日 試験日 平成22年3月10日
詳しくはホームページで: <http://ww4.et.tiki.ne.jp/~jerko/>

財団法人 中国四国酪農大学校

〈資料請求先〉

〒717-0604 岡山県真庭市蒜山西茅部 632
TEL (0867)66-3651(代) FAX (0867)66-3652